



水稻の省力的な栽培技術の検討 ～「高密度播種短期育苗」への取り組み支援～ 対象：愛別町省力化栽培技術導入志向農家



- 「高密度播種短期育苗」は、慣行栽培に比べて育苗期間が短く、苗の草丈が確保しにくい。また、移植時の植え傷みにより、初期生育が劣りやすいなどの課題がある。
- 苗の草丈を確保し、初期生育を高め、栽培の安定化を図るため「シルバートンネル育苗」「緩効性肥料育苗箱施肥」「移植後の適正な水管理」を提案した。
- また「緩効性肥料育苗箱施肥」が初期生育に及ぼす効果を確認するため、本田に展示ほを設置し調査を行った。
- これらの取り組みにより、苗の草丈は目標とする10cm以上を確保した。また緩効性肥料を施用した苗を移植した調査区では、初期茎数が平均581本/m²（無施用区対比117%）となり、初期生育を促進する効果を確認した。その結果、収量・品質の確保につながった。

1 課題の背景

現地での課題

慣行栽培に比べて育苗期間が短く、苗の草丈が確保できない

初期生育が劣るため、茎数の確保がしにくい

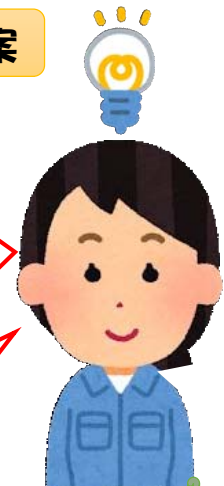
生育が遅れると品質が低下する



普及センターからの提案

苗の草丈伸長（目標10cm以上）と初期生育促進のため「シルバートンネル育苗」と「緩効性肥料育苗箱施肥」に取り組んでみましょう！

早生品種「えみまる」を作付しましょう！
移植後も適正な水管理で、茎数を確保しましょう！



提案技術を検証し、課題解決による安定生産をめざす！

2 活動の経過

- 品種を「えみまる」に選定
- 「緩効性肥料育苗箱施肥（マイクロング、エコング）」を実施
- は種日から14日間、シルバートンネル育苗で管理
- 移植後の適正管理の実施 など

苗質調査、生育・収量調査を実施し、効果の確認を行った

緩効性肥料育苗箱施肥

は種時に
箱あたり100g施用



シルバートンネル育苗



苗の草丈が5～7cmになったら、トンネルを除去しましょう

3 活動の成果

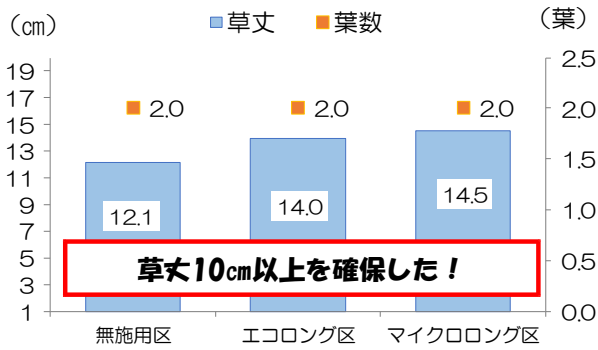


図1 苗の草丈、葉数

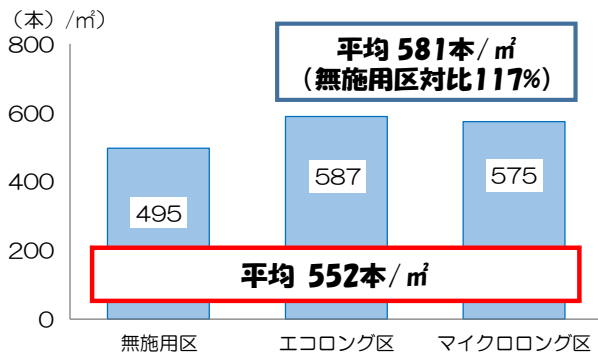


図2 6/25時点の茎数

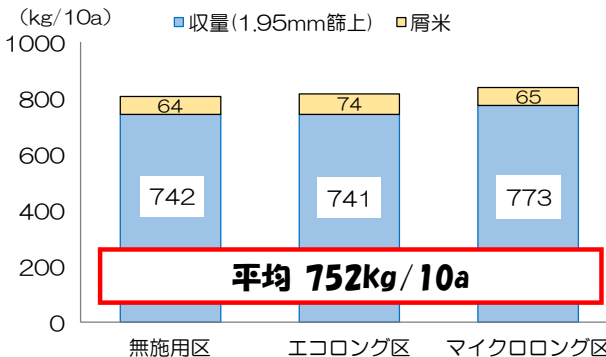


図3 収量



「高密度播種短期育苗」に適した栽培方法に取り組むことが大事なんだね!

苗の草丈確保

全ての区でシルバートンネル育苗を行ったため、草丈の伸長は良好であった。
また、緩効性肥料を施用した苗は、持続的に肥料を吸収したため、より草丈伸長に効果が見られた。



初期茎数の確保

全ての区で植え傷みは無く、移植後の水管理も適切に行われ、初期生育は良好であった。
特に緩効性肥料を施用した区では、窒素濃度の高い苗を移植したこと、移植時に肥料が本田に持ち込まれたことで、より茎数増加に効果が見られた。

収量・品質の確保

表1 蛋白含有率、検査等級

区分	蛋白含有率 (%)	検査等級
無施用区	6.6	1等
エコロング区	6.4	1等
マイクロロング区	6.3	1等

早生品種の選定や栽培方法の改善に取り組んだ結果、全ての区で穂揃い性も良く、順調に登熟し、収量・品質は良好となった。
※町平均収量（農政事務所調べ）との対比は130%



4 今後の課題

- ・「えみまる」を育苗する場合の徒長の回避。
- ・他品種での栽培技術の検証。

